

外研社·供高等学校日语专业使用

# 新经典 日本语

## 写作教程

总主编 / 刘利国 宫 伟  
主 审 / 修 刚 陈 岩 石川守(日)  
主 编 / 宫 伟 刘 娜

第一册



外语教学与研究出版社

外研社·供高等学校日语专业使用

# 新经典 日本语

写作教程

总主编 / 刘利国 宫 伟

主 审 / 修 刚 陈 岩 石川守(日)

主 编 / 宫 伟 刘 娜

副主编 / 小井亚津子(日) 山下茜(日)

上原克善(日)

外语教学与研究出版社

北京

第一册

## 图书在版编目 (CIP) 数据

新经典日语写作教程. 第1册 / 宫伟等主编. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2015.3  
(新经典日语 / 刘利国, 宫伟主编)  
ISBN 978-7-5135-5745-0

I. ①新… II. ①宫… III. ①日语—写作—高等学校—教材 IV. ①H365

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2015) 第 059409 号

出版人 蔡剑峰  
责任编辑 戚新  
装帧设计 佳禾书装  
出版发行 外语教学与研究出版社  
社 址 北京市西三环北路 19 号 (100089)  
网 址 <http://www.fltrp.com>  
印 刷 中国农业出版社印刷厂  
开 本 787×1092 1/16  
印 张 11  
版 次 2015 年 4 月第 1 版 2015 年 4 月第 1 次印刷  
书 号 ISBN 978-7-5135-5745-0  
定 价 29.00 元

购书咨询: (010) 88819929 电子邮箱: [club@fltrp.com](mailto:club@fltrp.com)

外研书店: <http://www.fltrpstore.com>

凡印刷、装订质量问题, 请联系我社印制部

联系电话: (010) 61207896 电子邮箱: [zhijian@fltrp.com](mailto:zhijian@fltrp.com)

凡侵权、盗版书籍线索, 请联系我社法律事务部

举报电话: (010) 88817519 电子邮箱: [banquan@fltrp.com](mailto:banquan@fltrp.com)

法律顾问: 立方律师事务所 刘旭东律师

中咨律师事务所 殷斌律师

物料号: 257450001

# 前言

近年来，我国高等院校外语专业在人才培养模式、课程设置、教学内容、教学方法等方面都发生了很大的变化。为了适应新的教学需求，在对全国不同类型院校日语本科教学现状进行调研的基础上，大连外国语大学和外语教学与研究出版社共同组织中日两国专家和一线教师编写了这套《新经典日本语》本科系列教材。作为本系列教材之一，《新经典日本语 写作教程》是在学习和吸收国外第二语言教学先进理念和方法的基础上，借鉴国内外已经出版的优秀教材的经验，结合中国日语本科教学的现状和大纲要求编写而成。

写作是人们日常交际中的一种创造性的言语活动，是用语言文字表达思想、传递信息的过程。外语学习中一般强调“听、说、读、写、译”等几项技能，而“写”无疑是学习者最难掌握的一种能力，“写作课”也是任何外语学习中的一门必修课。

日语写作亦不例外，作为一门重要的必修课，日语写作课受到了各开设日语专业院校的足够重视。然而，重视并不等于问题的解决。传统的日语写作课堂，往往只注重日语表达能力的培养：老师布置题目，学生写作，老师批改后讲解，重在解决学生的词汇、语法、句型等方面的语言表达问题；而传统的写作教材亦是多将重点放在字词句的表达及对一定题材的文章进行模写等方面。以上问题的存在，造成了日语写作课的“鸡肋”现象：学生学之无味，老师教之无措。

为解决上述问题，本套教材将日语写作课程作为培养日语专业学生“综合能力”的重要一环。这种综合能力除传统意义上的基于字、

词、句、篇章的语言表达能力之外，还重视培养学生在信息化社会中的信息获取和分析能力、自主学习能力、对事物的“思辨”能力，以及团队合作能力、自省能力等。在编写体例上，除着眼于提高学生的日语表达能力之外，始终坚持以“阅读→调查→写作→学生协作→教师批改”为主线，将上述各项能力的培养贯彻到该教材的方方面面。

具体说来：

1. 打破以往作文教材“学生写、教师批改”的单一教学模式。为提高学生的自主学习能力，增强分析问题和解决问题的能力，在每一个单元里均有“热身环节”（ウォーミングアップ），让学生在作文执笔之前先阅读中日文的相关资料，增强对该类题材相关内容的了解，将阅读理解与写作结合起来，启发学生多思考，培养其思辨能力。
2. 为培养学生获取信息并合理分析信息的能力，该教材还引导学生在写作之前对相关内容进行调研，利用书籍、网络等各种手段，收集有一定深度和广度的资料，并利用这些资料写出条理性、逻辑性强的作文，着力于解决很多学生不知如何下笔的问题。
3. 为进一步提高学生的团队协作能力和沟通能力，本教材采用了目前国际上一种先进的教学理念——“学生协作”这一模式。要求学生在习作的修改完善阶段，与同学互相点评，这样既可

以改变教师“一言堂”呆板、单调的课堂教学模式，活跃课堂气氛，又可以进一步调动学生的学习积极性，使学生互相激励，互相学习，提高课堂教学的效果。

4. 充分发挥编者均为作文教学一线教师的优势，将编者在教学实践中发现的一些问题、尤其是中国的大学日语学习者易犯的错误，大量呈现在教材中，并对这些误用例加以分析，提出表达上的建议，再配合相关练习，以最大限度避免学生重复犯错。
5. 在教材内容的选定上，主要选取跟学生生活密切相关的内容，以避免很多学生为了作文而作文这一问题。通过用日语写作文，让学生一方面提高自己的日语水平，另一方面通过语言来了解社会，使其对中日两国的社会文化差异有一定认识，勤于思考，加强思辨能力。

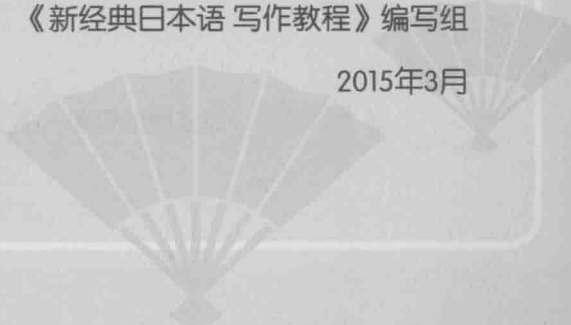
希望该教材的出版能够有助于解决大学日语专业本科教学中的一些问题。

本教材的出版得到了大连外国语大学的大力资助，出版过程中还得到了外语教学与研究出版社的鼎力协助，在此一并表示诚挚的谢意。

由于编者水平有限，错漏之处及不当之处在所难免，敬请读者批评指正。

《新经典日语 写作教程》编写组

2015年3月



# 本書の使い方

## I 本書の構成と基本的な流れ

本書では、基礎的なテーマから難易度を上げて段階的にレベルアップができるように、ユニットを構成しています。初めに、それぞれのユニットの目標を示しており、内容に関わる目標は「◇」で、作文の技術に関わる目標は「◆」で示してあります。

各ユニットには、2つずつのテーマ（作文の課題）を設けており、それぞれの基本的な流れは下記の通りになっています。

### 1. ウォーミングアップ

例題を解く、例文を読むなどの練習を通して発想を広げ、テーマに合った文章を書く準備をする。

### 2. アウトラインを書いてみよう

段落構成を考え、アウトラインを作成する。

### 3. ピア活動（1）

グループでアウトラインを読み合い、意見交換をする。

### 4. 表現の準備

各テーマで使用頻度が高いと思われる表現について学ぶ。

#### ◆ 重要ポイント

特に使用頻度が高い表現や文型などを、練習問題を通して習得する。

#### ◆ こんな誤用や不適切表現に注意

中国人学習者に多い誤用を認識する。

### ◆ 要注意ポイント

類義表現などの注意が必要な項目について学ぶ。

表現アドバイス

多様な表現を知り、より適切な文を書く力をつける。

### 5. 書いてみよう

作文を書く。

### 6. ピア活動（2）

グループで作文を読み合い、意見交換をする。

### 7. 推敲作文を書こう

ピア活動で気づいたことを活かし、作文を書き直す。

## II

### ユニット4アンケート調査をし、レポートを書こうについて

ユニット4の2つ目の課題は、調査票を作成してアンケート調査を行い、結果を分析するという特性上、下記のように、他のユニットとは異なる流れになっています。

#### 1. ウォーミングアップ（1）調査票作成の流れ

テーマ設定から、調査票が完成するまでの例を読み、流れを理解する。

#### 2. ウォーミングアップ（2）調査票作成時の注意点

調査票を作る際に気をつけるべき点について学ぶ。



### 3. 調査票を作ってみよう

グループで意見交換を行い、調査の方針を決める。

### 4. 調査票を完成させよう

調査票を完成させる。

### 5. 完成した調査票をチェックしよう

調査票の内容をチェックする。

### 6. 調査結果をまとめよう

結果分析時の注意点を学び、調査レポートの例を読む。

### 7. 表現の準備

調査レポートを書く際に使う表現について学ぶ。

### 8. 書いてみよう

調査レポートを作成する。

### 9. 調査結果を発表しよう

クラス内で調査結果を発表し、互いに評価し合う。

なお、ここで示されているアンケート調査例は、専門的な学術調査ではないことをお断りしておきます。

### Ⅲ 記号の凡例

本書では下記の3つの記号で、例文の適切さを表しています。

▼：誤用あるいは使用を避けたい表現

△：場合によっては問題が生じる表現、あまり日本語らしくない表現

○：適切な表現

例：▼ いつか夢を現実になりたいです。

△ いつか夢を現実にしたいです。

○ いつか夢を実現させたいです。

なお、このような記号は、例文の適切さを比較するためのものです。文頭に何も記号がない例文は、全て適切な表現です。

### Ⅳ 文体について

本書では、ユニット1・2は敬体、ユニット3・4は常体で作文を書くことを想定しています。そのため、ユニット2と3の間(P.77~80)に文体の書きかえ練習を掲載しています。

### Ⅴ ピア活動について

従来 of 作文学習の多くは、学生一人で構想を練り、書いて、担当教員に提出し、添削してもらうものでした。

一方、ピア・レスポンス (Peer Response) は、学生同士の主体的活動を重視する「協働活動」です。ピアは仲間の意味で、レスポンスはアドバイス・意見を指しています。ピア・レスポンスでは、学生同士がペアあるいは少人数のグループになって、お互いの作文を読み合い、ワークシート (ピアシート) に書かれた項目を参考にしながら、アドバイスをし合います。

本書では、ピア・レスポンス活動 (ピア活動) を作文のアウトラインを書いた後および作文の第一稿を書いた後に実施します。

#### ◆ グループ編成

より効果的なピア活動ができるように、学生たちを4～5人のグループに分けて活動します。グループ編成は、担当教員が行ってもよいですが、クラスのことをよく知っているクラス委員 (班長や学習委員等) に依頼してもかまいません。グループ分けの基準は決まっていますが、日本語能力に差のある学生、そして異なる背景を持つ学生を1つのグループにする方がより活発な議論ができると考えられます。

#### ◆ 教師の役割

① グループ編成が終わり、グループによるピア活動が始まってから、担当教員は各グループを巡回し、質問が出たらその質問に答えていきます。ピア活動がうまくいっていないグループがあった場合、適度に介入してもかまいません。

② 文法の実ミスや表現の問題などは教員が最終的にチェックするため、学生には内容についてお互いにアドバイスを提供しあうよう注意を促します。

③ 学生同士がピア活動を経て書いた推敲作文を提出した後、教師はそれを添削して学生に返します。

## 評価

ピア・レスポンスは、学生同士の主体的活動を重視する「協働活動」です。教師による評価だけの場合、学生の活動への参加を総合的に評価しきれない恐れがあります。そこで、学生による自己評価および学生同士によるピア評価を適度に取り入れ、活動全体の評価になるよう心がける必要があります。

### 学生によるピア評価の一例

1. グループのメンバーがちゃんと作文を書いてきましたか。

[ はい いいえ ]

2. グループのメンバーがあなたの作文を真面目に読んできましたか。

[ 5 4 3 2 1 ]

3. グループのメンバーがあなたの作文に対して適切なコメントやアドバイスをくれましたか。

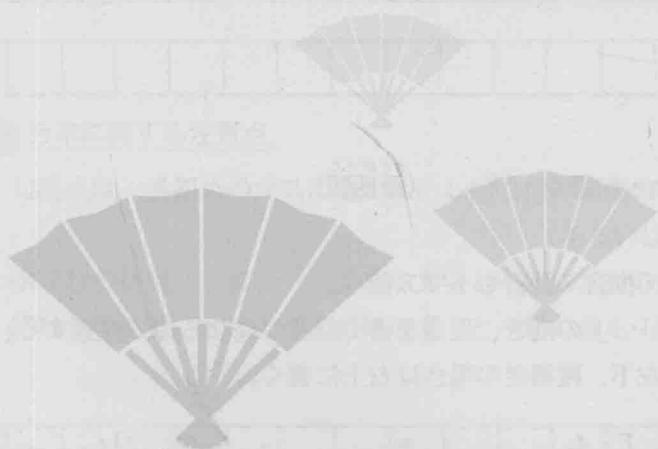
[ 5 4 3 2 1 ]

# 目次

はじめに .....	001
ユニット1 紹介文 .....	011
1 故郷を紹介しよう .....	012
豆知識 様々な呼称 .....	027
2 学校を紹介しよう .....	028
豆知識 性別の表現の使い分け .....	041
練習問題解答例 .....	042
話し言葉／書き言葉 対照表 .....	044
ユニット2 感想文 .....	047
1 日本語を学んで .....	048
豆知識 配慮が必要な表現 .....	060
2 短歌を鑑賞しよう .....	061
豆知識 「ちょっと」はちょっとだけじゃない .....	074
練習問題解答例 .....	075
文体の書き換え .....	077

ユニット3 意見文.....	081
1 働くことについて考えよう.....	082
豆知識 現在形で過去を語る.....	098
2 英語の位置づけについて考えよう.....	099
豆知識 定着した美化語.....	112
練習問題解答例.....	113
ユニット4 レポート.....	117
1 データ（グラフ）を分析しよう.....	118
豆知識 省略語で文章を簡潔に.....	130
2 アンケート調査をし、レポートを書こう.....	131
豆知識 中国流の自画自賛に注意.....	157
練習問題解答例.....	158

# はじめに



# I 原稿用紙の使い方

原稿用紙には、縦書きと横書きがあります。両者は、形式面では同じですが、表記面での違いがあります。基本的な使い方、縦書きと横書きの表記の違いなどについて、見てみましょう。

## ① タイトルと名前

- ・ タイトルは、1行目に、3字（3マス）程度空けて書く……①
- ・ 名前は、2行目に書き、行末を1字分空ける……②
- ・ 段落の最初は、1字分空けて書き始める……③

①

			サ	ッ	カ	ー	の	魅	カ											

②


③


## ② 漢字・ひらがな・カタカナ・句読点・「」<sup>かぎかっこ</sup>（鍵括弧）

- ・ 1マスに1字書く。
- ・ ひらがな・カタカナの促音・拗音・長音も1マス使う。
- ・ 横書きと縦書きで、長音、「」の向き、促音を書く位置が異なるので注意する。
- ・ 句読点は、横書きの場合は左下、縦書きの場合は右上に書く。




私	は	友	達	か	ら	「	お	は	よ	う	。」								
ま	す	。	コ	ワ	ン	ピ	ー	ス	」	と	い	う	日	本	の	漫	画	に	出

### 行末に関する注意点

- 句読点は一番初めのマスに書かない。前の行の最後の文字と一緒に書く…④  
(あるいは欄外に書いてもよい…P.7参照)
- 始まりの括弧「 は、「 の次の文字と一緒に、行の最後のマスに書く…⑤
- 終わりの括弧 」は、行の最後の文字と一緒に書く…④

寂	し	い	気	持	ち	の	時	で	も	、	明	る	く	「	お	は	よ	う	。」	④
と	い	う	と	、	少	し	元	気	が	出	て	さ	ま	す	。	友	達	が	「	お
は	よ	う	。」	と	返	し	て	く	れ	る	の	が	嬉	し	い	で	す	。	」	⑤